

令和4年度 駒沢中学校学校関係者評価委員会 報告書

今年度も長引く新型コロナウイルス禍のために様々な活動に影響が避けられない状況でしたが、教職員の方々は様々な工夫をして学校運営をコロナ禍前に近づける努力が行われ、運動会や合唱コンクールなどの開催を実施する事が出来ました。しかし、保護者の方々の学校への来校はまだまだ制限的にならざるを得ないために十分に学校運営を知る機会が失われている状況でありました。こうした中で学校関係者評価アンケートが実施されました。保護者の方々には回答が困難な状況にあったことと推察しております。

また、今回からWeb上でのアンケート調査に変更したためか保護者の回答率が極端に下がる結果となりました。今年もアンケート結果の集計は、単純に過去の評価と比較検討することが適切ではない項目もあり、そのことをご理解いただくことをお願いし、令和4年度駒沢中学校学校関係者評価委員会で実施した学校関係者評価の結果および提言を、次のとおりご報告いたします。

【令和4年度学校関係者評価】

■アンケート実施期間：令和3年11月10日～11月20日

■回収数(率)

	生徒	保護者	地域の方
配布数(人)	372	372	45
回収数(人)	325	173	20
回収率	87.37%	46.51%	44.44%

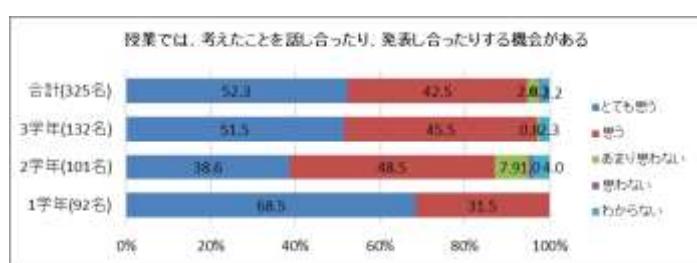
1 学習指導について

(1)生徒による評価について

「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」という項目への肯定的評価(とても思う、思う)が92.6%(昨年度94.8%、以下括弧内は全て昨年度数値)「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価が89.2%(92.3%)、「授業では考えたことを話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的評価が92.8%(94.8%)、「先生は、提出物やテストなどをわかりやすく評価している」の肯定的評価が75.4%(83.7%)という結果となっていて、いずれも肯定的評価が微減している。このことは、引き続くコロナ禍での生徒の学習環境や先生の指導環境の困難さの表れとは即断できないが、これまでと同様に、本校の学習指導の基本方針である「主体的・対話的な学びを推進し、思考力・判断力・表現力・課題解決能力を向上させる」に沿った学習指導及び学習活動の一層の推進に向けての尽力が期待される。

しかし一方で「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価が88.0%(86.8%)、本校の独自項目「タブレット端末を適切に使用して、自分の学習に役立てている」という生徒自身の自己評価では87.7%(84.5%)が肯定的に評価している。また、新項目の「学習に目的意識をもって取り組んでいる」の肯定的評価が87.7%である。今後ますます期待されるICTの活用による学習活動の充実に向けて指導の継続を望むものである。

学年別でみると、1年生のほぼ全ての学習評価項目で90%以上の生徒が肯定的評価をしている。特



に、「授業では考えたことを話し合ったり、発表したりする機会がある」項目では1年生の100%全生徒が肯定的評価をしていることは特筆に値する。学年を経るにしたがってこのような数値が維持されていくことを期待している。

(2)保護者による評価について

「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業をしている」という項目の肯定的評価が69.4%(73.3%)、「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価が48.6%(59.9%)、「本校は、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価が75.7%(77.5%)、「本校は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価が57.8%(68.1%)となっていて、いずれも肯定的評価の数値が下降している。このことは保護者の回収率の低さが少なからず影響している可能性も考えられるが、一方で否定的評価(あまり思わない、思わない)の数値に比して、「わからない」の回答が多いということは保護者の戸惑いの表れとも理解できる。

本校の新しい独自項目のひとつである「本校の生徒は、計画的に家庭学習をしている」の保護者による評価について、肯定的評価が47.4%、否定的評価が19.1%、「わからない」が33.5%という数値から、生徒の家庭学習への学校の指導の一層の充実はもとより、保護者が学校の学習指導及び生徒の家庭学習に對して常に深い関心を持つことが望まれると考える。



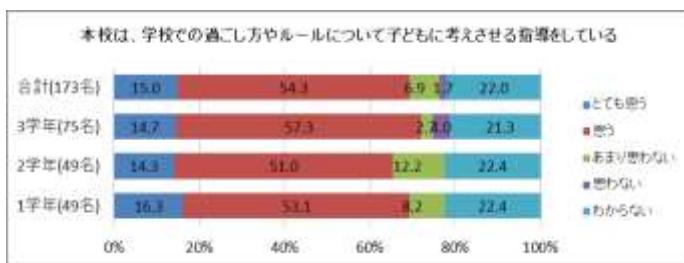
2 生活指導について



生徒アンケート「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」の肯定的評価が86.4%「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」の肯定的評価が91.7%と高い評価で、この2項目とも、特に1年生では肯定的評価が97.8%、93.5%と90%以上の高い評価である。このことから1年生は、入学した時の様々な不安な思いを先生の生活指導を理解することで、よりよい信頼関係ができると思われる。先生は、新型コロナ感染予防対策をしながら生徒への生活指導を行う努力が感じられる。

保護者アンケート「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価が69.3%と昨年度より10.5ポイント下がり、「わからない」の回答が22.0%であった。保護者が生徒の学校での様子を見る機会は昨年度より緩和されたが肯定的評価が下がったのは、生徒が学校の様子を家であまり

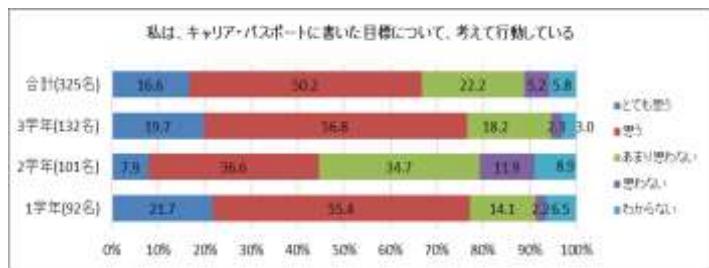
話さないこともあるようで、このことも影響しているのではと思われる。これらのことから、保護者は、学校での先生や生徒の様子を見るため、積極的に来校(学校行事や学校公開など)することに努めていただき、保護者が先生とこれまで以上の信頼関係を築けることを期待したい。



独自項目の地域アンケート「本校の生徒は、地域において落ち着いて生活している」の肯定的評価が85.0%と、高い評価である。生徒の登下校の様子が落ち着いていると思われる。地域の方は、新型コロナ感染予防対策のため、学校行事を見に行くことができない状況が続いている。そのため、学校の様子などていねいな情報提供をお

願いしたい。それから、地域の方とのより良い信頼関係を築いていただきたい。

3 キャリア教育について



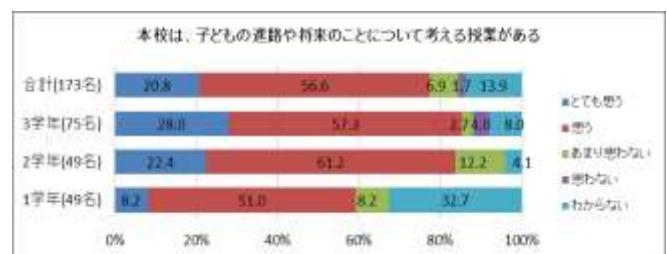
生徒アンケート「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」では、1年生の肯定的評価が 76.5% (52.2%) と高くなっている。これは、一昨年度から小中学校通して活用されているキャリア・パスポートが定着しつつある状況を表していると考えられる。一方、2年生は否定的評価が

46.6% (26.0%)、「わからない」が 8.9% (2.1%) と、合わせて半分強になっている。日々成長する生徒たち、学年によってキャリア教育の受け取り方が異なる状況がうかがえる。また、何をもって生徒が否定的回答をするのか、検証することは有効と思われる。

保護者アンケート「本校は、キャリア・パスポートの目標について子供に考えさせる指導をしている」では、1年生の保護者が 67.4% (56.7%)、2年生の保護者が 77.5% (86.1%)、3年生の保護者が 82.6% (85.0%) である。1年生の保護者には、キャリア・パスポートが周知されつつある状況がうかがえる。一方、2、3年生の保護者については、昨年度と比べると低下しており、学校からの具体的な指導内容のアピールが望まれ、また保護者の関心が高まると良いと思われる。

続いて、生徒アンケート「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」について、1年生の肯定的評価が 64.2% (43.7%) と高くなっている。これは進路選択にはまだ余裕のある1年生にも関わらず、小中学校一貫してのキャリア教育により生徒の意識が高くなっている状況がうかがえる。2年生の 70.3% (78.1%) はやや低下しているが、前出のアンケートよりは高い。職業人を招いての「出前授業」を体験できる「職業 days」は、生徒が社会とのつながりや職業意識をより身近に感じ、考えることができるきっかけになると思われる。保護者や地域と連携・協力し、より一層の充実が望まれる。

保護者アンケート「本校は子供の進路や将来のことについて考える授業がある」は、3年生の保護者 85.3% (84.9%)、2年生の保護者 83.6% (77.7%) と高く、「職業 days」は、学年だよりやホームページでも積極的に発信されており、保護者にも分かりやすくなっていること、進路選択に向けての取り組みとして評価されている一面があることがうかがえる。一方、1年生の保護者の「わからない」は 32.7% (30.8%) と目立っている。アンケート集計時点でキャリア教育の授業が未実施なことも原因と推察される。今後は、学校公開やイベントが徐々に再開されている状況に保護者が慣れ、参加していくことで改善していくことが望まれる。



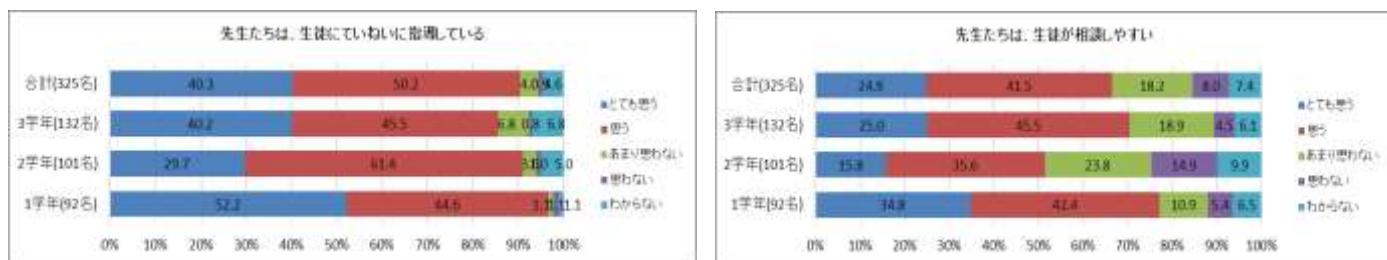
生徒アンケート「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」では、3年生が 78.8% (90.4%) と低くなっている。コロナ禍で、いまだに学校見学や模試、進学相談会に制約があると生徒が捉えていると思われ、学校から、生徒が望む形での情報提供や支援が望まれる。また、保護者アンケート「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」では、肯定的評価が、3年生の保護者 82.6% (72.6%)、2年生の保護者 79.6% (71.6%)、1年生の保護者 57.1% (51.0%) と高く、3年生の保護者に限定されていた「進路説明会」に、1、2年生の保護者も参加可能となったことに保護者が満足している状況がうかがえる。

4 教職員について

生徒アンケート「先生たちは、生徒にていねいに指導している」の肯定的評価が 90.5% (89.1%) と 1.4 ポイント増加、否定的評価が 4.9% (6.6%) と 1.7 ポイント減少に対し、「わからない」が 4.6% (4.3%) と 0.3 ポイント増加している。「先生たちは、生徒が相談しやすい」については、肯定的評価が 66.4% (64.9%) と 1.5 ポイント増加し、また、否定的評価も 26.2% (24.2%) と 2.0 ポイント増加しているのに対し、「わからない」は 7.4%

(10.9%)と3.5ポイント減少している。

先生の指導は概ね良好であると評価できる。相談しにくいという生徒も例年同様に一定数おり、昨年より増加していることは気になるが、「わからない」が減っているということは、先生と関わりをもちつつ、各自の意見を示したことは、評価できると思われる。



一方、保護者アンケートでは、「本校は、丁寧に指導している」の肯定的評価が75.7%(75.2%)と0.5ポイント増加、否定的評価が11.0%(13.0%)と2.0ポイント減少、「わからない」が13.3%(11.8%)と1.5ポイント増加、「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」は、肯定的評価が68.2%(68.7%)と0.5ポイント減少、否定的評価が20.8%(21.5%)と0.7ポイント減少、「わからない」が11.0%(9.8%)と1.2ポイント増加している。どちらの項目も「わからない」が増加しているのは、保護者の学校への関心が低いから答えられないとみるべきか。

独自項目「教職員の応対におけるマナーや態度などはしっかりしている」は肯定的評価が85.0%(86.3%)と1.3ポイント減少、否定的評価が9.3%(7.2%)と2.1ポイント増加、「わからない」が5.8%(6.5%)と0.7ポイント減少、と否定的評価が増している。

昨年度と比べて、公開授業など学校行事が増えている分、保護者の教職員を見る目が厳しくなったからではないかと思われる。

5 総括

今年度も「学校関係者評価アンケート調査」が生徒、保護者、地域住民を対象に行われた。従来、総括は評価の経年変化を視点に行われていたが、報告書の冒頭にも述べているように、コロナ禍の事情を勘案して単年度評価に重点をおいて行った。

最初に、生徒の学校評価は、「学習指導」5項目、「生活指導」3項目、「学校行事」3項目、「キャリア教育」3項目、「先生について」2項目、「全般」6項目、「部活」2項目、「駒中独自」6項目の30項目の質問構成で行われた。

生徒のアンケートは授業中に実施されるので、コロナ禍の影響は少なく87.3%と例年と同じような回収率となった。

まず、総合評価の肯定的評価は79.0%で、否定的評価は14.4%の結果となり、昨年度の総合評価(肯定的評価78.2%、否定的評価14.9%、「わからない」6.9%)と大きな変化が無く高い評価を維持する結果となった。特に印象的なことは、「先生」、「授業内容」、「学校行事」、「学校生活」に関する生徒の評価が高い(85.2%)ことである。この項目は学校運営の根幹をなす項目だけに、先生方の日々の努力が生徒に十分に伝わっていることを意味するものである。しかし、「家庭学習」「e-ラーニング活用」の項目は56.0%となり、生徒自身の学習面に関する取り組みは例年50%台と平均的である。一方、「あいさつ」や「規則を守る」などの行動面は88.8%と高く、社会的マナーの自覚は高い。また、例年のことであるがコロナ禍の特殊事情も加わり、今回の中で一番評価が低かったのは「小学校との交流」項目が17.0%であった。

次に、保護者の評価は、「学習指導」4項目、「生活指導」2項目、「学校行事」3項目、「キャリア教育」3項目、「教職員」2項目、「全般」6項目、「部活動」2項目、「情報提供」4項目、「学校運営」3項目、「家庭と学校の連携」3項目、「地域との連携」3項目、「学校の安全」3項目、「駒中独自項目」6項目の44項目の質問構成である。

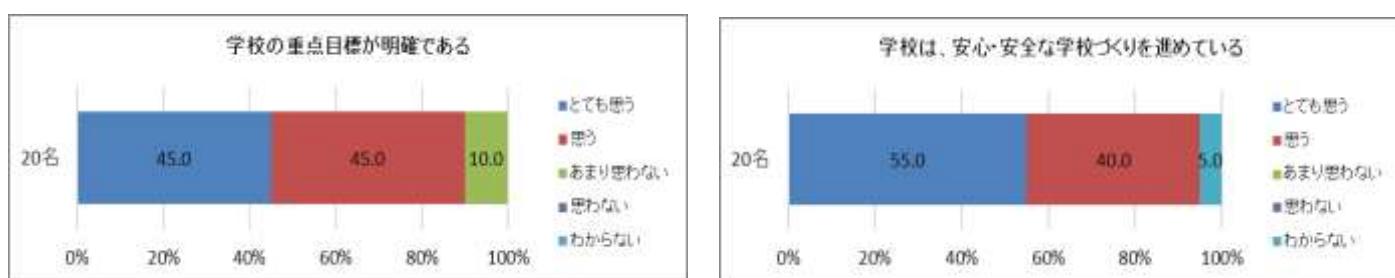
総合評価は、肯定的評価は70.3%、否定的評価は14.7%、「わからない」は15.0%と高い評価であった。保護者も生徒と同じく「学校行事」については肯定的評価が92.8%と一番高い。他に生徒が高く評価している「学習

指導」については、生徒の 91.0%に対して保護者は 62.9%である。「生活指導」については生徒の肯定的評価が 89.8%に対して保護者は 71.4%、「教職員の丁寧な指導」については生徒の肯定的評価は 90.5%、保護者 75.7%であり、これらの項目は教職員の教育姿勢を問うものであり、日々教職員と接している生徒からの評価が高いことは注目に値する。また、今回も「わからない」の回答が高かったのは保護者の方々の来校機会の減少によるものと考えられる。

今回の保護者のアンケート回収率が毎回 80%以上は保たれていたことに対して 46.5%に下がり、区内の中学校の全体的な傾向となったことは、調査方法がアンケート用紙の配布から Web 上の回答になったことが要因としてうかがえる。一方で学校から数回保護者の皆さまに回答の協力要請が行われており、今後も経済的な点や集計の効率の点からも、今回の形式が継続されることが予想される事や、学校関係者の意見が活用されて学校発展が行われる視点からも、皆さまの協力が不可欠であることの理解をお願いしたい。

最後に、地域の方々の評価は、肯定的評価が 79.4%、否定的評価が 10.0%、「わからない」 10.6%になった。地域の方々も学校に来る機会が失われているために正確な評価を行う事が困難な状況であると推察されるが、

「学校の重点目標の明確」 90.0%、「学校は安心、安全な学校づくりをしている」 95.0%、「生徒が交通ルールを守っている」 85.0%、「生徒の挨拶」 80.0%などが高い肯定的評価がされている。



6 更なる改善の努力課題

- (1) Web 上によるアンケート回答率の向上
- (2) 保護者の来校機会を増やし、子どもの姿を知る学校公開の努力